

佐高1年 SGH Project Rubric 第 班 ○で囲む→ 一般 保護者 大学教員 学生 高校教員 高校生 自己評価 (班 組 番) 氏名

評価項目 / レベル		レベル1 (ノーグッド)	レベル2 (グッド)	レベル3 (ベター)	レベル4 (エクセレント)	得点記入 (1~4)
Literacy 調査力	①調査力	インターネットや文献調査のみである	(ネットや文献で自分たち以外の先行研究も把握して研究を進めた 例 論文をサイトで複数見つけて参考に	アンケート調査や聞き取り調査 (インタビューなど) を収集した	実際に体験する等の本格的な調査を行った 例 提言するフットパスコース12kmを実際こ歩いて調査した	
	②体験から学ぶ力	フィールドワーク (FW) 体験を、ほとんど研究に生かしていない (ネット等でのみ)	FWで得た情報を研究に十分取り入れて進めることができた	FWから地域の特色に気付くことができた 例 新エネルギー源が豊富に存する地域であることが分かった	FWから地域の特色とグローバル社会とのつながりにまで気付くことができた グローバル課題解決のために、足元から実践すべき活動やできる取り組みが見えてきた	
Solving Problems 提言力	③地域性	佐野や栃木の特色をふまえずにテーマを設定した	地域の特色を調査してテーマを設定した	地域の特色を多面的に調査してテーマを設定した	さらに、地域の特色をデータで示すなどして実証的に調査した	
	④持続可能性	稚拙な自由研究レベルである 例 「天が油捨てないで」 運転研発表	持続可能な社会の実現のために、よくある提言である 例 廃油回収ボランティアを立ち上げよう	持続可能な社会の実現のためにオリジナルな提言である 例 地域のスーパーからの廃油量マップを自作して提言	地域の企業や自治体に実際に提言できるレベルである 例 廃油回収がビジネスになるユニークなアイデアを提言	
Diversity 異なる考え方を生かす力	⑤協働性	役割分担ができていない	役割分担をして調査・研究している	(役割分担して調査・研究したばかりでなく) 協力して論を練り上げていった	メンバーの異なる個性、持ち味を引き出してチームの力を最大化できた	
	⑥つながる力、巻き込む力	「留学生指導」の留学生を含め、外部の人と連携できていない	外部の人から調査への回答・協力は得られた	おもしろい研究だと、外部の人が大いに賛同・応援までしてくれるレベルである	社会の人々を自分たちの研究に巻き込んで研究を共同調査研究の形で進めることができた 例 直売所の方と組んで「農村食堂」を提案	
Presentation 表現力	⑦分かりやすい論理性	結論・展望にそれまで提示されている情報と矛盾する部分がある	結論・展望がおおむね論理的に情報と結びつけられている	結論・展望が論理的に情報と結びつけられ、矛盾等が皆無である	結論・展望が情報と論理的に結びつけられ、矛盾点等もなく、さらに対立する観点も含まれている	
	⑧伝える工夫と意欲	PP (パワーポイント) 資料を作ることができた [単に作ったレベル]	PP資料の作り方の基本は身に付いている	(統計や図が効果的、アイコンタクト等)、分かりやすく伝えるための工夫があった	関心を惹きつけるための創意工夫・アイデアが随所に凝らされている [「人」を惹きつけるレベル]	
ご感想やアドバイス・ご助言を						合計得点